

令和元年度 事業報告

I 公益目的事業に関する事項

令和元年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した（別添参考1）。

- ① 小澤健二研究員「2000年代のアメリカの農業政策の展開とその特質
－1990年代までの農業政策と対比して－(1)」
- ② 八木宏典研究員「変貌する日本の食と農
－平成の食、農、技術はどのように変わったか－」
- ③ 坪田邦夫研究員「外国人農業人材受け入れの課題(2)」
- ④ 両角和夫研究員「農協合併の問題と1県1農協の課題
－ネットワーク型農協論の視点から－」
- ⑤ 田家邦明研究員「森林環境税の活用に向けた課題」
- ⑥ 小川増弘研究員「自給飼料を活用した和牛繁殖の実証的調査研究(7)」

(2) 研究会方式及び研究企画委員会方式による研究

3テーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、研究を行った。また、研究企画委員会を新たに発足した。

① 今日の農業問題に対応した農協のあり方に関する研究会

主査 両角和夫研究員

平成26年度から標記テーマについて調査研究を行っており、令和元年度については、研究成果を報告書にとりまとめ、令和元年9月に「農協をめぐる問題と改革の課題<農協のあり方に関する研究会報告>」（日本農業研究シリーズNo.25）を刊行した。

② アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫研究員

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、令和元年度については、これまで検討対象としてきた諸国の食料・農業政策とその分析結果を現在の観点で再検討を行った。

③ 地域農業事情に関する研究会

主査 田家邦明研究員

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、主査による現地調査により、京都府京丹後市に関する行政機関及び生産者から状況の聴取を行った。

④ 農業・農村の諸課題に関する研究企画委員会

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関係者に対し情報公開した。

令和元年度研究企画委員会

第1回（令和元年12月3日開催）

講師：小川 真如

「2018年度以降の米政策における都道府県・市町村の農業再生協議会の役割と全国悉皆アンケート調査にみるその実態」

第2回（令和2年1月9日開催）

講師：荒幡 克己

「米政策調整－国からの配分廃止と次なるステップへー」

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和元年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産業学群教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター調査研究部）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「宮城県の水田地帯の震災復興2－仙台東部地区 農事組合法人せんだいあらはまの事例－」、山浦陽一氏「中山間地域の集落営農法人の現状と展望－定点観測2－2」、小澤卓氏「離島農業の特徴と農業関係交付金の活用について」）を『農業研究』に掲載した（別添参考1）。

（4）実験農場における調査研究

農場において、専任職員と研究員を置き、飼料生産部門と家畜飼養部門を併営し、粗飼料について可能な限り自給することを目指した繁殖経営を行っている。その内容・成績及び実践を通じて飼料生産面、家畜飼養面において明らかになった課題や講じた改善策について、農家に対する参考情報として『農業研究』に掲載するとともに、生産した育成牛を茨城県内の市場に出荷することにより、地域における素牛資源の供給に貢献した（別添参考2）。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、（株）佐藤農場代表取締役）佐藤忠美氏他3氏を招き、講演会を開催し、参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考1）。

令和元年度講演会

第1回（令和元年6月18日開催）

講師：佐藤忠美氏

「北海道での直播による稲作経営の現状と課題」

第2回（令和元年7月23日開催）

講師：西山直司氏

「農業現場から見た外国人労働の現状と課題」

第3回（令和元年9月10日開催）

講師：梅本 修氏

「私の農業経営一人を育てる有機農業の実践」

第4回（令和元年10月1日開催）

講師：柴田正貴氏

「平成の畜産技術の開発・普及をふり返る」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に対し、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和元年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。この成果は、令和2年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

① 高野 里紗 金沢大学大学院人間社会環境研究科博士前期課程

「新市場創出のプロセスと高付加価値化の探求～国産紅茶を事例として～」

② 野村 一貴 東京大学大学院教育学研究科博士後期課程

「流域連携活動が農村地域に与える役割に関する実証的研究」

③ 渡邊 綾 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程

「農業体験学習はいかに可能かー農業と学校教育の交点における可能性と課題」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

農業に関する学術研究上顕著な業績を挙げ、斯学の発展に多大の貢献をなした者を表彰するため、日本農業研究所賞（隔年3件以内、賞金1件100万円）を授与している。

令和元年度は、この第29回として定款及び「日本農業研究所賞表彰規程」第4条の定めるところにより、受賞候補者を公募し、選考委員会における審査を経て受賞者を下記のとおり決定した。

受賞者

（五十音順）

研究業績の題名

板橋 久雄：ウシの第一胃内微生物消化特性の解明とその酪農技術への応用

大坪 研一：米の品種判別および加工利用技術の開発

田村 俊樹：

瀬筒 秀樹： 遺伝子組換えカイコの作出とその産業利用の技術的基盤の確立

Ⅱ 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋及び農地を、公益法人等8団体に貸し付けた。

Ⅲ 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

令和元年度の評議員及び役員等は、令和2年3月31日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

岩 堀 修 一	(筑波大学名誉教授)
大 杉 立	(東京農業大学客員教授)
春 見 隆 文	((一財)日本醤油技術センター理事長)
菊 地 敦 子	((一財)公務人材開発協会代表理事)
古 在 豊 樹	(千葉大学名誉教授)
佐 藤 洋 平	(東京大学名誉教授)
生源寺 眞 一	(福島大学食農学類教授)
染 英 昭	(穀物乾燥貯蔵施設協会理事長)
西 尾 道 徳	(元筑波大学教授)
濱 口 義 曠	((一社)農山漁村文化協会理事)
藤 卷 宏	(農業・食品産業技術総合研究機構フェロー)
松 川 正	(元畜産試験場長)
三 輪 睿太郎	(元日本農学会会長)

計 13 名

(2) 理事及び監事

理事長	田 家 邦 明
常務理事	川 勝 哲
理 事	市 田 知 子 (明治大学農学部教授)
	小 澤 健 二 ((公財)日本農業研究所研究員)
	岸 康 彦 (元(公財)日本農業研究所研究員)
	鈴 木 昭 憲 (東京大学名誉教授)
	竹 内 克 伸 (弁護士)
	南 波 利 昭 ((公社)畜産技術協会会長)
	西 尾 健 (法政大学名誉教授)
	松 本 聰 (東京大学名誉教授)
	八 木 宏 典 ((公財)日本農業研究所研究員)

計 11 名

監 事

	高 濱 正 博 (元食品産業中央協議会常任理事)
	吉 國 隆 ((一財)大日本蚕糸会顧問)

(3) 顧問

顧 問 服 部 信 司

2 評議員会及び理事会等

令和元年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第1回」令和元年6月14日(金)

出席者13名(評議員総数13名)

付議され承認された議案

① 平成30年度決算書類に関する件

その他報告事項

① 平成30年度事業報告に関する件(令和元年5月28日理事会決定)

② その他

「第2回」令和2年3月25日(水)

出席者13名(評議員総数13名)

付議され承認された議案

① 令和2年度事業計画書及び収支予算書に関する件

② 日本農業研究所賞受賞者決定に関する件(報告)

③ その他

(2) 理事会

「第1回」令和元年5月28日(火)

出席者10名(理事総数11名)

付議され承認された議案

① 平成30年度事業報告及び決算書類に関する件

② その他

「第2回」令和2年3月13日(金)

出席者11名(理事総数11名)

付議され承認された議案

① 令和2年度事業計画書及び収支予算書に関する件

② 日本農業研究所賞受賞者決定に関する件

③ 評議員会の招集に関する件

④ その他

(3) 監事監査

令和元年5月10日(金)

出席者2名(監事総数2名)

付議され承認された議案

平成30年度事業報告及び決算書類に関する件

3 職 員

令和2年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員7名、総務部長1名、参事1名、助手1名

計10名

実験農場 研究員1名、副場長1名、主任技師1名、主事補1名

計4名

4 図 書

令和元年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

令和元年度収書数

区分	雑 誌 等			単行書（冊）			備 考
	和	洋	計	和	洋	計	
購入	125	-	125	16	3	19	
受贈	177	-	177	4	0	4	
計	302	-	302	20	3	23	

蔵書数

区 分	数 量	備 考
単行書前年までの累計数	21,824 冊	
令和元年度廃棄数	0 冊	
令和元年度登録数	23 冊	新刊書
単行書計	21,847 冊	

(注) 資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別 添

(参考1) 令和元年度における主要調査研究成果

* 『農業研究』 (日本農業研究所研究報告第32号)、令和元年12月、B5、431頁

目次内容

- ・2000年代のアメリカの農業政策の展開とその特質
－1990年代までの農業政策と対比して－(1) (小澤健二)
- ・変貌する日本の食と農－平成の食、農、技術はどのように変わったか－ (八木宏典)
- ・外国人農業人材受け入れの課題 (2) (坪田邦夫)
- ・農協合併の問題と1県1農協の課題
－ネットワーク型農協論の視点から－ (両角和夫)
- ・森林環境税の活用に向けた課題 (田家邦明)
- ・自給飼料を活用した和牛繁殖の実証的調査研究 (7) (小川増弘、吉沢 哲)
- ・宮城県の水田地帯の震災復興2
－仙台東部地区 農事組合法人せんだいあらはまの事例－ (森田 明)
- ・中山間地域の集落営農法人の現状と展望－定点観測2－2 (山浦陽一)
- ・離島農業の特徴と農業関係交付金の活用について (小澤 卓)

(特別寄稿)

- ・水稲「在来品種」考 (西尾敏彦)

(平成30年度人文・社会科学系若手研究者助成事業 研究成果)

- ・農業における家業継承に関する事例研究－女性継承者に着目して (小林那奈子)
- ・グリーン・ツーリズムが小中学生の環境配慮に与える影響について (高尾 美鈴)
- ・イギリス有機農業論史－戦間期イギリス帝国におけるインドール農法の取り組みに着目して－ (御手洗悠紀)

* 『農業研究』 (別冊) 第7号、令和元年12月、B5、227頁

令和元年度日本農業研究所講演会記録

目次内容 (敬称略、講演会開催順)

北海道での直播による稲作経営の現状と課題

(講師 佐藤 忠美)

(解題 小澤 健二)

農業現場から見た外国人労働の現状と課題

(講師 西山 直司)

(解題 坪田 邦夫)

私の農業経営－人を育てる有機農業の実践

(講師 梅本 修)

(解題 田家 邦明)

平成の畜産技術の開発・普及をふり返る

(講師 柴田 正貴)

(解題 八木 宏典)

* 日本農業研究シリーズ No. 25 令和元年9月、B5、327頁

「農協をめぐる問題と改革の課題<農協のあり方に関する研究会報告>」

(主査 両角和夫研究員)

(参考2) 実験農場の和牛飼養頭数と牧草の作付面積及び生産量

1 和牛飼養頭数

(単位：頭)

区 分	期 首	増 加		減 少			期 末	備 考
		生産	繰入	出荷	繰出	死亡		
繁殖牛	50		2	3			49	
育成牛	36	51		44	2	1	40	
合 計	86	51	2	47	2	1	89	

注：区分は以下のとおり

1. 繁殖牛：経産牛及び月齢が14ヶ月齢以上の繁殖もと牛
2. 育成牛：上記1以外の子牛

2 牧草の作付面積及び生産量

(単位：a、ト/10a、ト)

利用区分	草 種	作付面積	単 収	総収量	備 考	べール個数
放牧地	オーチャードグラス、他	630	-	-	一部更新	
採草地	オーチャードグラス、他	390	3.5	136.4		341
	イタリアンライグラス	325	3.0	96.8	新播	242
	リードカナリーグラス	95	3.0	28.8		72
合 計		1,440				655